

合気道の開祖

植芝 盛平

うえしば もりへい

1883年-1969年

「合気道の創始者である植芝盛平翁は、私にとって神様のよきな存在です」合気道を始めて65年、田辺市内で合気道場を主宰し、その普及に努める五味田聖二さんが、植芝翁に初めて会ったのは小学4年生のときだと言います。「当時、身体の弱かった私を心配して親が道場に通わせましたが、正式に道場生になったのは中学1年生のときでした。大先生(植芝翁)は、私に技術よりも心の修行、つまり精神の修行が大切であることを教えてくれました」



植芝盛平翁顕彰会 理事長
五味田 聖二さん

合気道の理念は、武道を通して多くの人に出会い、「和合」を尽くすこと。田辺市内の公園にある両手を広げた植芝翁の銅像は、「技」と共に「宇宙の和合精神」を表現しているといわれ、植芝翁が創始した合気道は、日本はもとよりヨーロッパを中心に世界各地に広がっています。



The practice of "aikido," founded by Morihei Ueshiba, has spread throughout Japan and onto many areas of the world, especially Europe.

田辺ゆかりの偉人たち

世界的な博物学者

南方 熊楠

みなかた くまぐす

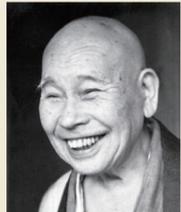
1867年-1941年

和歌山県が生んだ博物学・民俗学の巨星「南方熊楠」は、東京大学予備門退学後、アメリカ・キューバ・イギリスに游学し、数多くの論文を発表しました。「ネイチャー」掲載の論文数では、いまだに日本人で彼の右に出るものはいません。特に変形菌(粘菌)の研究は有名で、彼の名前の付いた「ミナカタラ・ロンギフィラ」があります。今から100年前に「エコロジー(エコロジー)」という言葉を使い、神社林伐採による生態系破壊の危機に対して反対運動に奔走し、自然環境を守りました。「継桜王子・野中の一方杉」をはじめ、熊野古道には今も熊楠ゆかりの神社や神社林が点在しています。



Kumagusu Minakata, Wakayama Prefecture's renowned naturalist and folklorist, spent the latter half of his life in Tanabe. He published many dissertations of his studies, and began using the word "ecology" long before others. He also took measures to protect the environment.

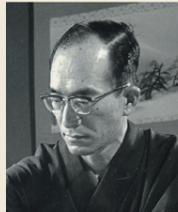
山本 玄峰 (やまもとげんぼう) 1866年-1961年



本宮町生まれで、24歳の時に失明後、四国八十八箇所の霊場巡りに出ました。全国を回って修行を続け、白隠慧鶴の古刹を再興します。'45年、鈴木貞太郎首相に終戦を勧め、「象徴天皇制」を提案するなど、鈴木首相の相談役を務めました。

Genpo Yamamoto, who became blind at the age of 24, served as an advisor to Prime Minister Suzuki, recommending the end of war in 1945.

高川 格 (たかがわかく) 1915年-1986年



田辺市生まれで、本因坊戦9連覇の功績により名誉本因坊として「高川秀格」と号し、後に二十二世本因坊を贈られました。「流水不争先」を信条とする昭和を代表する名棋士です。'74年に紫綬褒章、'85年に勲三等旭日中級章など多くの受賞、褒章を得ました。

A renowned master of the game of "igo," Kaku Takagawa received the Purple Medal of Honor in addition to many other awards.

脇村 義太郎 (わきむらよしたろう) 1900年-1997年



田辺市生まれで、昭和から平成の経済学者であり、東京大学名誉教授でもあった脇村氏は、海運・保険・石油などの世界経済や経営史を研究しました。財閥解体・海運業界再編など数多くの産業政策に参画し、'88年から'94年まで日本学士院長を務めました。

Yoshitaro Wakimura, a scholar of economics in the Showa(1926-1989) and Hesei(1989-present) eras, was a professor emeritus at Tokyo University.

小川 琢治 (おがわたくじ) 1870年-1941年



田辺藩儒学者 浅井家に生まれました。地学の研究を志して、日本各地を調査し、日本列島の地質二重構造説・日本アルプスの低地水河存在説などを発表します。'26年、帝国学士院会員に任命されました。湯川秀樹・小川芳樹・貝塚茂樹らの父です。

Takuji Ogawa carried out research in geosciences throughout Japan, and published many treatises.

片山 哲 (かたやまつ) 1887年-1978年



田辺市生まれで、東京帝国大学法学部独法科卒業、弁護士となります。社会民衆党の結成に参加し、書記長に就任します。'30年、衆議院議員に初当選し、以後、当選12回を数えます。戦後、日本社会党結成に参加し、'47年、内閣総理大臣に就任、'63年に政界を引退しました。

Attorney Tetsu Katayama was first elected to the House of Representatives in 1930, and went on to serve as Prime Minister in 1947.

野長瀬 晩花 (のながせばんか) 1889年-1964年



中辺路町近露生まれで、谷口香嶺に師事しました。その後、官展に反する姿勢を示し、個展などで作品を発表します。'18年には土田麦僊らと国画創作協会を創設し、日本画壇に新風を吹き込みました。また、信州の画家、詩人らと白炎社を結成し、芸術文化運動に貢献しました。

The painter, Banka Nonagase, brought new influences into the Japanese art scene.



国立科学博物館蔵

南方熊楠顕彰館 南方熊楠邸

「1867年、和歌山市に生まれた南方熊楠翁は、後半生を田辺で過ごしました。熊楠翁の死後、遺族によって邸宅(南方熊楠邸)や資料は保存されてきましたが、平成12年に長女・文枝さんが亡くなり、その遺志によってそれらは田辺市に寄贈されました。平成18年、旧邸の隣に南方熊楠顕彰館が開館。熊楠翁が遺した2万5000点以上の蔵書や資料を保存・研究するとともに、熊楠や熊楠のまら田辺の情報を発信しています」
また、熊楠翁が研究の場とした邸宅は、熊楠存命時の状態に復原し、庭とともに公開しており、往時の雰囲気を感じることができます。



南方熊楠顕彰館 館長
曾我部 大剛さん

菌類のうち、キノコについても多くの努力を費やしました。乾燥標本だけでなく、彩色図に専門的な記載文を付けたものを約4000枚も作成しました。